



中村俊定文庫  
文庫 18  
409  
1



徳文庫

糸羽破の美乃世一は  
片の心をもちむらける  
と人乃こしあはるる  
もふはふとこしあはる  
かたふらむ乃ちの理守る

徳文庫

徳

徳

古今行次月題集卷

吾友及妹を種日し半き  
 二十五年あ方るに  
 漸くはるるるるるるる  
 たりるるるるるるるる  
 あはははははははははは

おも不人伊也  
 三三三三三三三三三三  
 あ

藤原伯倫  
~~藤原伯倫~~



にもつひかゝりてうぬふとばさのひとほまのハは集にほえり  
出せるりく巻はみりけにむりいけり一も片紙をそ載しは  
廣く時世のさほもちり一ぬ又いふ一をこの先は人たため  
ノハ蓋能浩のむとる一とほハゆ急あや

○此集女とせむるものおもきぞに極本ふれをべらり一と  
に事のはりさしだやぬ又ナラ勢をうりせりや補ひた  
一とを却の書はいちらうにほてむり一とそしとまハ  
ゆふたうとでうけひはれそのちをちり一と集はうつ  
一と人おかくるる一とひと世にめ集とまぶり一と  
一と一と集をえれにゆり一とあやまるとそハはさる一と  
ぐ一と一とあ一とたむぬくもゆり一とびたにさかくてら

ひとりの罪もふり人のさしをあやまほにせられば二と  
二と集志をりにおりひたちてと一と一と集はすむ一と  
まふはにすけふ人あつたにを作しては集に語らむ  
まをおりひと或ハ換ぐは記のまら一とあつたもとて  
来て日にち小ひまハあすは及ぶと記を語るにけり  
まはれとえり一と一と集はしにゆり一と一と集はしに  
一と一と集はしにゆり一と一と集はしにゆり一と一と  
まらなく一と一と集はしにゆり一と一と集はしにゆり  
石におゆるしとあひらと出るむのいとわくたがゆは  
是り一と一と集はしにゆり一と一と集はしにゆり一と  
○ス一と一と集はしにゆり一と一と集はしにゆり一と

字ひもたゞさで志はせぬあそびたゞくもめくもさたぐひの  
のけりもも飛りくハイヤ〜

○芭蕉麦林をばい先もあひ集り梅子のハおかく出さば又  
中集にのれし縁を拾ひけり〜出せぬもあつ。

○念の國の廣き境ふせ〜ばにあそびく名く〜俗人といふはげ  
り〜せり白牡丹の原に雪〜のさ〜にけり〜むを〜に渡せ  
〜はらやつ〜半の及ば〜は〜又雪の白もあるかざら〜ハ  
正〜けり〜日の偉日は経〜た〜は〜の敷〜を〜む  
いと〜か〜た〜る〜し〜た〜と〜お〜な〜お〜む〜た〜つ〜  
た〜む〜も〜ハ〜た〜く〜雪〜の〜ま〜は〜の〜ら〜る〜と〜又〜一〜字  
た〜た〜ぐ〜ひ〜も〜く〜さ〜と〜あ〜を〜丸〜た〜く〜る〜も〜あ〜つ〜。

○和歌的狂集といふおら梅を〜ら〜ら〜のふよせ〜ぬ〜む〜も〜も  
撰〜出〜せ〜つ〜と〜い〜ハ〜時〜お〜や〜に〜や〜え〜と〜ら〜ら〜狂〜の〜を〜お〜も〜す〜と〜狂〜の  
撰〜つ〜ぬ〜も〜白〜牡丹〜の〜原〜に〜雪〜の〜さ〜と〜あ〜に〜け〜り〜と〜

○白をまつ〜〜は〜は〜つ〜つ〜で〜ハ〜雪〜あ〜〜を〜え〜〜み〜て〜上〜中  
志も〜さ〜め〜は〜は〜あ〜〜む〜〜と〜あ〜〜人〜今〜も〜人〜り〜と〜  
人〜は〜は〜〜〜〜か〜ら〜〜〜〜〜は〜〜あ〜〜の〜む〜た〜時〜や〜つ〜が  
雪のまに〜〜は〜は〜を〜〜雪〜の〜と〜志〜は〜〜。

○白牡丹のいはれ〜〜〜〜〜は〜或〜ハ〜お〜る〜の〜び〜は〜た〜の〜  
た〜ら〜書〜の〜撰〜あ〜つ〜を〜り〜て〜い〜は〜蓋〜雅〜を〜も〜て〜す〜み〜な〜は〜小〜河〜の  
あ〜や〜も〜も〜も〜の〜ら〜ら〜又〜字〜作〜に〜読〜り〜て〜を〜〜〜も〜も〜た〜へ〜と〜バ  
白に〜よ〜ら〜て〜は〜た〜た〜ぐ〜ひ〜め〜ら〜ら〜む〜人〜を〜を〜ら〜ら〜と〜。



此のそとまうく一てあはらばむのあういあうまたは家もいれどせは  
 こと一はさざこのかちて世の人をいんをまむては今の俳諧よ  
 のいびいさああやういしんあははのこまいああぬえまよ  
 作らひては事にもまなけはれまぬ人いふまはひいさ  
 海くまひいしんあはむては海まはまはまや今定にあいし  
 はと百ういしんあはむては葉のいあはまよりて志を興さむも  
 事本の名を志はむいふあはむかまひはむ。

○凡あうたはむさうぐの中にあう。 皇朝の事にあう。いしんあ  
 うもつけはあはむ。いふあひあはむ。かひいしんあはむ。いふあ  
 あれどいひきうんをかちにむむをさう。いふあはむ。

宝曆癸未の始九月日東於吸露庵はあはむ一涼城はむ

古今俳諧明題集春部目錄

子ノイノイニ 年内五春	初葉	立春	任初至	福壽州	二
新水	二	屠菊	二	蓬萊	二
着衣始	三	試筆	三	少見比須	三
懸想文	三	破魔弓	三	弓始	四
馬乗初	四	船乗初	四	謡初	四
釋初	四	高始	四	浴室始	五
萬歳	五	春駒	五	傀儡師	五
粗公	五	鳥逆	五	小松枕	六
人日	七	福佛	七	閑寂	七
甲曹鏡答割	七	帳打	八	水掛祝	八

番下	八	常陸神事	八	縣召	八
粥杖	九	林善入	九	花燈夕	九
御忌	九	春風	後九至	御寒	十
春雪	土	春雨	後十一至十二	霜	後十二至十三
魚上水	十三	雪消	後十三至十四	雪間	十四
水煖	十四	下落	十四	芥菜	十四
女菱	十五	款花	十五	木芽	十五
本芽漢	十六	甲切	十六	蝦蟇新葉	十六
芽獨活	十六	薄菜	十六	新草	十七
芸心	十七	苦脯	十七	雞兒腸	十八
松花	十八	梅	後十八至二十	柗	後二十至二十二

喚起	後北三	鮓殘魚	北五	乾雪鱈	北五
二月堂行	北五	釋奠	北五	薪能	北五
涅槃會	北六	彼岸	北六	治龍酒	北七
水祭	北七	初午	北七	臘夜	北八
臘月	後北八	燒野	北九	陽火	北九
紙卷	後北九	鷹	三十	春鷹	二十
稚	後三十	岩天子	後北一	知更雀	北二
字曾	北二	末都牟之理	北二	百千鳥	北二
鳥尾	北二	鳥巢	北三	黃雀	北三
蹄雁	北三	燕	後北三	水鳥蹄	北四
鹿角解	北四	猫	北四	啓蟄	北五

糊 餅 卅五  
 鱈 卅六  
 寄居魚 卅八  
 秧田 卅九  
 蕨 卅九  
 春菊 卅九  
 野蒜 卅九  
 蔞 卅九  
 菊 卅九  
 野蜀葵 卅九  
 連翹 卅九  
 蜂窠 卅六  
 田螺 卅七  
 介寄風 卅八  
 麻蔴 卅九  
 筆頭菜 卅九  
 菜花 卅九  
 萬首 卅九  
 紫籜 卅九  
 胡顏子 卅九  
 辛夷 卅九  
 山茶 卅九  
 薺 卅六  
 鯉 卅八  
 釋圃 卅九  
 播種 卅九  
 蒲公英 卅九  
 珊瑚菜 卅九  
 蕩掘 卅九  
 菊 卅九  
 芥菜 卅九  
 迎春花 卅九  
 掃枝 卅九

出代 卅五  
 潮盡 卅六  
 踏音 卅七  
 順峯入 卅七  
 長日 卅八  
 鳥沖雲 卅九  
 櫻棘乳魚 卅九  
 上藻 卅九  
 茅減 卅九  
 薊 卅九  
 芋種 卅九  
 雛像 卅五  
 硯梅 卅六  
 壬生傳奇 卅七  
 法花祭 卅七  
 田原化鳥鷲 卅八  
 琴 卅九  
 櫻魚 卅九  
 紫花地丁 卅九  
 原菊 卅九  
 木瓜 卅九  
 桃 卅九  
 翻雞 卅五  
 春霜 卅七  
 御身杖 卅七  
 燒寒 卅八  
 麥鷄 卅八  
 櫻貝 卅九  
 少溪鰻 卅九  
 新花紫菜 卅九  
 白頭翁 卅九  
 裙帶菜 卅九  
 櫻 卅九

海棠 五十八

金棣棠 五十八  
至五十九

石楠花 五十九

郁李 六十

採茶 六十

春夕 六十一

梨花 五十八

瑞香花 五十九

紫荊花 五十九

玉蝶 六十

梅新生葉 六十

暮春 六十二

羊躑躅 五十八

木蓮花 五十九

芙蓉花 五十九

五加 六十

紫藤 六十



古今俳諧明題集春部

年内立春

春のりをたいて惜むやとりのうち  
もる色をうらやめるまやとりのうち  
まのうちのまをたいて水のま  
とりのうちに白のまをうめれふ  
喚びまの粗率てもなりとれうち  
このうらやまはまをうらやのうち  
ちき日よ出て急ぐとりのうち  
児んよまぎびきまをうめれうち  
待て候へまをうらや福喜年

東都涼命撰輯



大和御本 去路  
近江日野 去路  
加賀松尾 去路  
伊勢山田 去路  
同 素園  
同 麦林  
江戸 兔士  
肥後熊本 破了  
武蔵西谷 破了  
同 西羊  
同 巴臣

春のうちは びんてんてん たる 乃 遊まり  
とーのうちに 幸 誇いより 清けり  
ぢとーの 遠く あり じゆい けい けい  
とー乃 うち 此 室 さいれ ちう ぶの 喜  
小 喜う じゆい 居 ちう ちう ーの 内  
ちう 年の 外 清 や ちう ちう ちう

立春

浦の 喜 ちう ちう 飛 び ぬ けり  
日の うち とめ けり ちう ーの 物 鳥  
げの くと ちう ちう じゆい ちう ちう ちう

大坂 一 嵐  
江戸 柳 居  
南 白 枝  
下 佐 青 藍  
全 涼 帚

伊 温 故  
大坂 邱 坡  
加 全 希 因

ま ーの 氷 柱 の 芽 の 清 けり  
ちう ちう ちう ちう ちう ちう ちう  
ちう ちう ちう ちう ちう ちう ちう

福寿草

あ げ げ の 八 低 う て ちう ー 福 寿 草  
此 ちう ちう の 色 あ げ や ちう ちう ちう  
肥 ちう ちう の 道 ちう ちう 福 寿 草  
ちう ちう ちう ちう ちう ちう ちう  
ちう ちう ちう ちう ちう ちう ちう

武 涼 帚  
去 雪 叩  
加 全 希 因

京 白 枝  
西 羊  
武 洗 雪  
江 涼 帚  
維 旭

古今和歌集卷之二

出日と同年なり 湯衣草

武小山 鬼洲

新水

彩のや 衣とよまねて 宿のづ  
こゝろのま 日と 栴檀 ぶらしてや

武吉 麦 宇 凉

屠蘇

屠蘇乃 乃 香々 アマめし 兼も 香々 とも

赤 元 女

蓬萊

蓬萊マ 蓬々 とも の りんご とも

上毛 妙美山 音

着衣始

神の座いより 捨くろ 着衣始  
屠蘇の香の 痕へ 熨斗マ きそ 始

江戸 深 奥 佐 秀 理

試筆

交 瀧 本ハ 我々 飛 葉マ 筆 とも  
行ハ 火 汗 ああ して 筆 ば じ 先  
多 け ぐ れ の 紙 つけ て 筆 とも

伊 梅 崎 武 文 東 路

少兒比須

古今和歌集卷之二

いとひづ人ハきくうわえいむ  
いとゆしとくす日ありわえいむ

左京 雲和  
下毛形原 百尋

無患文 ふきさふ

無患文ふきさふもかてかりき  
無患文ふきさふはかきかのかく  
無患文ふきさふはかきかめかもかもか

改上  
和暢  
一氣

破魔弓 やまはま

くまうやふはよハ乳ちをちなちら

甲斐守 不殘

弓始 ゆいめ

箭やはやるやしやめやでやーやらやたやめや  
是こがこれこ光こ陰ことこせこらことこめこ

近江膳所 昌房  
青蓮

馬乗始 うまの

糸始いとはいとまいとぐいと振いとりいともいと紫いとぐいとぞいとー  
ののぞのめのやの梅のよの白の沫のよのーのりの  
糸始いとよいときいとマいとおいとていと 白いと騎いと馬いと

いせ山田 龜之  
上毛境 茂野  
下毛足利 可考

和糸始 わいと

糸始いとはいと足いとがいとへいとーいともいと控いとのいとちいと

大坂 まさぬ

淫婦 いんぶ

いそめ衣エモンつくまて口を冠

青栴 巴 兮

穉婦 ちりぶ

いさごめやイッガの月とさうじ

武中 席 固

商婦 あきと

賣ツボ婦いそめやツボ茶いそめむいそめハいそめまいそめけいそめるいそめ福いそめ妻いそめさいそめ

日守 此 君

浴室ゆふ婦いそめ

先イッ毒ツ一ツ浴ユ室シにニあアのノあアとト先イッ

後 芥 志

ミン さい コ さい

あアまマれレにニママまマゆユハハつツくクるルとトもモ  
万マン年ネンママまマげゲめメてテるル雙ソウ打ダ戸ド  
まマまマやヤまマのノねネハハいイとトおオとト

素 困  
柳 居  
未 了

まマまマのノあアとト

まマまマのノあアとト 寺テ子シにニんンゆユらラしシ 時

武 枯 雨

傀クイ儡レイ師シ

古今新明集卷之一

笑よ寐てませぬ 猫下 傀儡所 皮上

祖公 さるまへ

帝袂の縁へけしあきさるまへ  
櫃公ヒキ 春盤ツツよ月ハ 詠ナれれび  
つげのハ人の知恵ちう祖まハ  
担ヒキ公ヒキ 袴の縁よあし 乃 痕

上毛前袴 黄牛  
まあ 笑林  
備あ 東起  
あ格 笑洲

鳥逐おひ

も逐おひや葉よまぶき形でなう

お及茶 三雅

小松挽こまつ いき

いつの今日挽ヒキ 結ヒキしやむとら松  
齋ヒキへまぶ 風ヒキやまて小松挽

武中 被了  
吐雲

人日ヒキ 新菜ヒキ

あしこ踏ヒキ 逐ヒキしや 郷菜ヒキ  
きのよまておさうきやま新菜ヒキ  
石ヒキのゆりしえゆれわちちし  
手居ヒキしあてヒキしや 茶ヒキ 掃  
白ヒキの音ヒキよつもわられれ  
就ヒキのくたてヒキしや ちヒキれヒキ

江戸 湖十  
江戸 希因  
日 祇巫  
秋 瓜  
素 園  
一 蕨

古今新明集卷之一

降る近きむらへる京やわらつて  
庵乃で小ねとちよる彩葉の乳  
ぬくぬくやむのあやまらぬは  
紙城の遊人のあはれは  
抱て出るまの帯や彩なつて  
袖いとらとめてぬるやわらつて  
きハゆうゆの跡ぬる彩葉の  
ぬるぬるをちよるぬハゆら  
ゆらゆらとちよるぬハゆら  
道ももろろとちよるぬハゆら  
彩葉のあはれは

一音  
涼帘  
全  
古山  
越後天林寺  
武吉居  
雙  
晚  
上毛富岡  
信茂定村田  
口戸  
冠  
菰丈  
萩

所もあはれ日本のまや  
青くとちよるとよこまや  
ふけによる花のちよるや  
紙の指の江あるわられ  
三人めの客でぬれつ  
何やまもろろとちよるぬハゆら  
七粒やちよるぬハゆら

雪叩  
石  
波  
志  
白枝

福清  
福より  
福清  
福清

大隅  
倚舟

古今事類通考 卷之二

柘脂ニツヤニの香ニホのしきニホ一福ニホ二ニホ一

把ニホ天草 壺ニホ似

用ニホ花ニホらニホきニホ

押ニホ折ニホ戸ニホマ我ニホらニホハニホくニホくニホびニホらニホきニホ

麦林

物ニホさニホるニホしニホいニホのニホ字ニホくニホくニホたりニホるニホ花ニホびニホきニホ

扶ニホ父ニホ金崎 涼ニホ戸

花ニホびニホきニホおニホろニホくニホとニホ梅ニホのニホ後ニホてニホ居ニホるニホ

甲冑鏡資割カウウイノ

朱ニホ纒ニホのニホ綴ニホもニホおニホろニホくニホてニホかニホくニホ部ニホ

武ニホ加ニホ李ニホ冠ニホ

帳釘チヤウキウ

怪ニホらニホまニホりニホゆニホとニホちニホハニホくニホくニホ成ニホるニホ

武ニホ加ニホ如ニホ毛ニホ

ぬ掛祝ニホ

居ニホ溜ニホへニホうニホめニホてニホ洒ニホまニホやニホ水ニホいニホとニホいニホ

一ニホ蕨ニホ

くニホくニホハニホおニホしニホとニホぬニホ礼ニホマニホれニホいニホとニホいニホ

涼ニホ字ニホ幾ニホ曉ニホ

番下ニホ

いニホかニホぐニホんニホとニホ鼻ニホのニホきニホきニホこニホ番ニホおニホろニホくニホ

安里

人ニホのニホ目ニホへニホ茗ニホちニホかニホまニホらニホびニホよニホこニホおニホろニホくニホ

江ニホ戸ニホ又ニホ久ニホ

古今事類通考 卷之二

古今集卷之二

下ケるより上ケるが將一 番おろ一  
<sup>性</sup> 珠もまぶささめころえ番おろ一  
 志まよとき後よお尋やふこおろ一  
 泣 寧 <sup>性</sup> 礼

常陸常神事 <sup>いさちのい</sup> のぎト

泣の供ハ寡婦で居り常陸常  
 志を降常おともぬ 凡そ沖ころ  
 いさち常おもひをせハあまごき  
 涼 寧 <sup>不</sup> 瓢 <sup>不</sup> 十 <sup>不</sup> 怒

縣召 <sup>あが</sup> り

馬よなるぞ 知ぬれなるあぐる  
 西 羊

土益と對の歌あまあぐる  
 楚 岫 <sup>江</sup>

粥杖 <sup>が</sup> 杖 <sup>か</sup> 名

粥杖やあめりしうめつくと  
 梨 明 <sup>後</sup>

林著入 <sup>い</sup> 入 <sup>り</sup>

やぶりや 懺悔ぐるくろなる  
 下ぬいさや 泣ど 涙よまうざら  
 るよ入 下 先よあるま 極てり  
 やぶりや 泣とら こと日のもき  
 やふりや 塘のな山と吹之  
 泣 寧 <sup>古</sup> 由 <sup>古</sup> 由 <sup>古</sup> 由 <sup>古</sup> 由

古今集卷之二

九

古今行状明題集卷之二

やぶりやあ〜まうやどさうま〜

涼宇

花燈夕やぶりの  
懐ま余利ハ〜て うめ乃乳

未杜ハ吾

御忌

後ツ帽ガぶ〜消〜り清忌の山なり  
さえ〜り清忌ヤ十夜のりの〜

未羅人  
日麦喬

春風ハ

ま風ハやまのツ窓ハとハ聲ハあ〜び

未其梅

と〜と吹おれ山ハやハるハの風  
まの風ハ麻ハの角ハ〜ハ〜  
柳〜ま〜ておれハまハれハ〜せ  
荒海ハと〜えハてハまハやハまハ乃ハ風  
〜〜まハびハまハやハ〜れハ〜せ  
吹ハ清ハと〜つハれハてハあ〜〜ハまハの風

山岸席  
金松丈  
仁百卉  
日源素  
徳帛

餘ハ

花ハさ〜又ハ甲ハ坂ハのハさハ〜  
〜〜〜  
花ハのハ〜

大胡周  
去路

古今行状明題集卷之二

まもしまぐ一かきふりまきさくれ  
晴くのまよとんちるれぬささ  
奥のまよ尾むり解てささ  
琴のまよ低ね一たのり解てさ  
喚びまよまよ候まよまよさ  
絃のまよのまきハつて解てさ  
水ハまよと破れハかゆる解てさ  
拍のまよ新柳枯て候まよれ

木吾  
西羊  
其笛  
鳥久  
李北  
祇翠  
浪袋

春雪

ましまでうこふまでうこてまの雪

支考

兼のまでかきふりまきさくれ  
京ハまよ時ハまよヤまよ乃ま  
中<sup>ナ</sup>天<sup>ツ</sup>のまよ増まよハつて解てさ  
櫛<sup>シ</sup>よまて一日ハくマハつて解てさ  
まよまよまよまよまよまよまよ  
おハまよまよまよまよまよまよ  
扨<sup>ヤ</sup>探<sup>ト</sup>まよまよまよまよまよ  
道<sup>ミチ</sup>絶て又山寺ヤまよのゆき

巴  
六  
柵  
一  
双  
入  
画  
太  
林  
凉  
楚  
州  
阜  
江  
帝

古今集卷之二

春の糸よくはつて枝もものも  
踏ふほろおほほりてなくやものも  
衣も脱て月まを穿しものも  
浮うらふ者まを破やものゆき  
涼帝 史丸 一嵐

春雨 ふるちゆめ

をぬや啼きよよ 飛ハか人こそ  
をよよい昆布のちやものぬ  
脛の靴くたマ くれのあめ  
夏に脱ぎ着のぬ成やものぬ  
裾帯茶よ湖の溢個やものぬ  
百弁 一嵐 如本

まるや門ハ柳のハま 藤  
をぬや差うしさるる後のぬ  
をぬやもの靴らぬぬれおし  
登るの極よ敷るうやものぬ  
狭田へつしゆう くれのあめ  
お籠の巴器もやまのあめ  
をぬや柳の肩れあて 居  
ねく芽と出れ菴やものぬ  
浮うめて柳靴 日ハちううう  
をぬやの心棟静なりまのあめ  
まぬやまぶこまの突がゆ  
李趙 西羊 保井 宇多 下毛足利 漢達 太阜 兔士 喜盛 用工

古今集卷之二

世田屋集巻之二

おしとおく 吹 ほうき ー ー ー ー の ぬ  
飽 みの 浪 浪 を ち ち ち ち ち ち の 白  
里 又 又 又 又 又 又 又 又 又 又 又 又  
も ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

雨 調 かき

湖 と 富 士 ー ー ー ー ー ー ー ー  
棧 船 夫 の ち ぎ れ て 出 ー ー ー ー ー  
鶴 の ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
ほ ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
を い の ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

斗 白

武 柳 水

全

下 矢 海

令 里 朝

一 双 飛

大 富 天

杉 と 出 て 花 一 派 ち ち ち ち ち ち

仁 嵐 雪

初 色 て 後 の 暮 る ち ち ち ち ち ち

上 似 竹

いとらば、おしーて 出 ち ち ち ち ち

七 亞 矢

素 人 人 から 城 吹 出 ー ー ー ー ー

希 岡

かろぐくと 山 越 ち ち ち ち ち ち

安 里

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

相 系

ど の お の ち ち ち ち ち ち ち ち ち

西 羊

年 時 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

涼 山

松 花 の 御 田 と ハ 又 ー ー ー ー ー

全

古今和歌集卷之十一

魚上氷うとこほろ

驚ハちらぐ 魚の氷よのぼるす

武蔵山 化

雪消ゆき

木のそらにあくさゆしてきゆる  
氷橋のふはりとさきききゆる  
山みして見といさるよハきゆる  
瘻ひとらきて柳もきゆる  
園うさつたやま忽たやまなるゆきゆる  
是日くちの出てもるきゆる

信武蔵 李武蔵 山上毛大田 門武蔵 戸武蔵 志武蔵

是こでよむ娘こ来こも既こもきゆる  
飛こくもるはこよこゆきけこる

茶友こ 洗雪こ

雪回ゆき

喚こ起こるの息こ吹こけこてきこる  
山こ運こよ目こ鼻このこ出こるこきこる  
静こ一こ隻こ何こもこやこらこぬこきこる  
ふこ其このこまこよこのこ出こるこきこる  
抄こ絶このこよこめこるこきこる

太年 祇至 百舟 一氣 写体

水煖みづぬ

古今和歌集卷之十一

十四

ぬるまじせようる清るマ水の上  
居ぬるよ暖むハアして水のく

上毛室田  
之丈  
下毛山本  
思志

下萌 しえ

下萌マ上能ハ今麦 かきけ  
岸の草解るほどづあてぬる

まふか金  
下伝小又川  
魚毛

芥菜 りせ

我 じ 沈 シ 鰯 イ の 函 ニ 入 ル  
葛 キ 苔 コ の 根 ネ を 洗 ヒ ハ 根 ネ せ リ 乳 ニ

文草  
涼俤

女萎 ろとこ

を地のぬる袋巾ややころうア

女山  
涼洲

款冬花 たきの

服 フ バ ス 被 ヒ け 師 シ たり 款 ク を ぶ  
和 ワ 道 ミチ へ 入 イ り あげ て け け け け け  
枝 エ 道 ミチ へ 入 イ り あげ て け け け け け  
弟 ニ 弟 ニ い 袂 タビ と あり け け け け け  
喜 キ も 喜 キ ぶ け け け け け け け け  
わ ワ ら ぬ 凡 マン よ び づ け け け け け  
あ ア く 子 コ 喜 キ れ の け け け け け

涼俤  
冠子  
吉路  
喜川  
大和柳本  
呼友  
西羊  
洗雪

茅菴のカイサニ花ハナ山ヤマ低ヒカしきれくろく

四道

木芽このめ

又石イシ成ナリ換カちふて 木芽このめ  
日ヒあつりつをえつめて高じのめ  
木キ食シの秋田ノ言コトまの芽のめ  
ふて白まの芽のめ  
木キ食シの秋田ノ言コトまの芽のめ  
ふて白まの芽のめ  
木キ食シの秋田ノ言コトまの芽のめ  
ふて白まの芽のめ  
木キ食シの秋田ノ言コトまの芽のめ  
ふて白まの芽のめ

大至 里郷 免洲 子風 の昇 深城 長尾

木芽この凌ツリ

境サカイのくまの凌ツリや 木のめの凌ツリ  
舌シタうちのウチのウチ凌ツリををぶぶままやや木のめの凌ツリ

越人 白陀

甲折この

やうの木のめの凌ツリよよててああくく  
ああ方方へへ土土ああくくままのの凌ツリ  
ままハハくくままのの凌ツリ  
つつれれくくままのの凌ツリ

涼常 度江 深城 深洲

古今和歌集卷之十一

照岳栗秋の葉 二ヶバの

つれハあまのあうくくのわろぞよハ

李中

せうぞうはゆ

凡いぬ人ガ若しおもめうぶくは  
やぶりののづつて咲もめうぶくは

緑相

薺菜

喚でえて 幸子のぶろはこきいし  
からうぼんハ見えぬこきいし

井花

新草

新草や言通つある まりのは  
わらわのゆめ 常はハ程き  
いふゆゑ 侍て せいのうきふ  
新草や 三郎がゆも 志のうら  
わらわの や 長はんの 終ら  
新草や まぐ井のうも 身材の足は  
わらわの 庭ぬらて 庭を  
新草や や ちの 庭のこいとき  
わらわの 庭ぬらて 庭を

温故 涼字 白枝 也者 古由 指以 仙衣 毛雪

古今和歌集卷之十一

薑心しやうしん

くももや小多の腫の低うぬり  
くももや流俗の家を回てうら

雙飛  
家治

苔脯たゐぼ

ちぬの苔と拾ふや苔脯のうも  
海苔やぬるて下下の浮上り  
のけさや海がて苔脯のぬり  
乾あげて味となくくや根のう  
海苔や羹ふ乾いてはほあき

破了  
九阜  
木節  
其梅

やうの苔脯の乾ある夕日小

一

雞兒腸けいじやう

うきうきにちのれてきるの上あき  
あむけて漆うるしのこるよあき  
搦なりて瘦やせくと清きよくよあき

母孝  
涼帝  
青藍

松花まつはな

大木へるびよ志あややまりの心  
秋ちうく惜うれまであらねる乳

笑林  
勢埤

古今和歌集卷之...

梅うめ

山里のあまのこゝろ... うめれをれ  
こけといふぬごころやうめれを  
うごいもの及魂をやうめれをな  
吹止て居不き... うめれはな  
鼻と出れ多し... うめれの花  
御凡ハ吹くも... うめれ乃それ  
さいもの皆及古... うめれ乃そ  
梅つれ... うめれ乃そ  
教... うめれ乃そ  
折... うめれ乃そ

芭蕉 江戸 山田 茂秋 以秀 大室 菅原 希因 巴静 雲郎

手つげ... 花の肌やうめれ乃そ  
梅つれ... うめれ乃そ  
台ハ... うめれ乃そ  
いけてのく... うめれ乃そ  
お... うめれ乃そ  
梅... うめれ乃そ  
うめ... うめれ乃そ  
浅... うめれ乃そ  
歌... うめれ乃そ  
を... うめれ乃そ

上毛 萩 涼 一 希因 西羊 六柿

古今和歌集卷之二

日の浅くもよもし清きうらめれふ  
新東の地よあけんうらめれふ  
梅うきよむらして用たり朝ぐし  
よのそくあけりつちかぬ梅うら  
朽木もし二日やうら梅うら  
血<sup>ササ</sup>とまき日ありうめれふ  
よの文<sup>スギ</sup>の画<sup>エ</sup>ふよきう梅のふ  
梅性<sup>カタイ</sup>子<sup>ジ</sup>碇<sup>シタ</sup>るむらじうめれふ  
かつうきの香<sup>ニホ</sup>ふてまき梅のふ  
天水の梅うらめてうらめれふ  
まきうら梅のほきまきうめれふ

女 吟 白 芭 日 以 祇 若 京 祇  
集 吟 枝 芭 日 以 祇 若 京 祇  
苑 凡 枝 叩 旭 内 考 至 推 川 翠

風吹ハ内かういやうめれふ  
岩の戸の滯<sup>カサ</sup>えつけう梅うら  
まけてまきうら梅のふ  
杖ついて他<sup>カサ</sup>へ<sup>カサ</sup>の<sup>カサ</sup>梅うら  
梅<sup>カサ</sup>や何<sup>カサ</sup>うら梅うら  
セハ<sup>カサ</sup>いハ老<sup>カサ</sup>樹<sup>カサ</sup>の<sup>カサ</sup>梅<sup>カサ</sup>の<sup>カサ</sup>ふ  
梅<sup>カサ</sup>が<sup>カサ</sup>ま<sup>カサ</sup>や<sup>カサ</sup>あ<sup>カサ</sup>れ<sup>カサ</sup>川<sup>カサ</sup>む<sup>カサ</sup>い  
あ<sup>カサ</sup>け<sup>カサ</sup>る<sup>カサ</sup>の<sup>カサ</sup>梅<sup>カサ</sup>う<sup>カサ</sup>め<sup>カサ</sup>れ  
凡<sup>カサ</sup>も<sup>カサ</sup>初<sup>カサ</sup>秋<sup>カサ</sup>ハ<sup>カサ</sup>ま<sup>カサ</sup>き<sup>カサ</sup>う<sup>カサ</sup>め<sup>カサ</sup>れ  
一<sup>カサ</sup>う<sup>カサ</sup>と<sup>カサ</sup>て<sup>カサ</sup>南<sup>カサ</sup>へ<sup>カサ</sup>爬<sup>カサ</sup>う<sup>カサ</sup>め<sup>カサ</sup>れ  
潔<sup>カサ</sup>き<sup>カサ</sup>ぬ<sup>カサ</sup>く<sup>カサ</sup>も<sup>カサ</sup>う<sup>カサ</sup>め<sup>カサ</sup>れ

女 破 一 東 露 曲 近 文 江 妻 倉 洲 朝 冥 笑  
集 紅 梢 繁 雪 妻 江 洲 朝 冥 笑  
苑 紅 梢 繁 雪 妻 江 洲 朝 冥 笑

古今事類考 卷之...

一つは元二つ... 状梅の道... 梅が重や... さらして... 破る... 梅... さらぬ...

上全... 女... 杏... 一... 一... 一... 東... 杏... 杏... 杏...

柳

しより... 柳... 柳... 柳...

破了... 柳... 柳... 柳...

根と... 何いと... 樹叢... 節... 遊... たり... 年... 花... ち... 梅... 川...

素園... 梅... 兔... 茂... 岸... 古... 春... 麦... 吐... 希... 太...

古今事類考 卷之...

...

古今事類通考卷之二

形おのり柳を 凡のゆきをさくし  
青柳のぬれてかきま 水車  
ま柳やふれておの山の形  
根よハニ節くくいてマるぎう乳  
目とつらつ話ハすぬマれまう乳  
正をなまのゆきねまやなきうな  
正面といくけもおて柳  
岩へ先振えんで居る柳うな  
冠しこいでハ 正もやなきう乳  
形取のぬき見えくぐる柳山  
冠楨よきのかきつけておく柳山

鬼士 一氣 百舟 津く 五葉 祇堂 汶上 女扇 武戸山 巴丁

くくくめ地をの影へ柳う  
曳よせてる奴のけうむ柳う乳  
新河細とつれて葉よなる柳う  
おーあひの備眼をよてまぬ柳山  
河苗のそへふさがるマるぎうな  
空へまて飛よくとマるぎう乳  
雪山のたもまきおろせバ柳うな  
程樹をのまうしなるぬ柳う乳  
紙をよめて柳の迷よなきう乳  
解魔法師の呪うはれる柳山  
柳翁の後歯と投を柳うな

双飛 勒文 鬼士 起鳳 鳥中 鳥林 乙路 杉町 漢毒 川父

古今事類通考卷之二

廿二

古今集卷之一

つめくさきこころへて長るやまぎし  
早崎のま理と通して柳うれ  
あゝい本末知れぬやまぎうれ  
こゝ西へ凡おしうれやまぎうれ  
石燈 挑ぶる柳のな  
を採りて筏のたやまぎうれ  
山城よ水ありくくちやまぎうれ  
病ぬ多とりえてまゝ居る柳うれ  
唇でるのなぐさむやまぎうれ  
ま柳やみと記してつれり  
交通堂よ海のこまぬ柳うれ

日 香阜  
巴 下  
日 士高  
八王子 来道  
時宗 巴崎  
素筏  
見利 雨不  
七尾 島浪  
江戸 亀文  
上毛 美氣  
武平 圭字

吹やめハゆふようもまき柳うれ  
晴天みしうて障ぬ柳うれ  
巻なるうて巻て見てり柳うれ  
燈花の肩もるるやまきうれ  
幕とれハ伸のちある柳うれ  
入て夜流のあゆるやまきうれ  
ま柳やどちらぐまのまのうれ  
柳花よ一丈盗むやまぎうれ  
猫の身勤して尺敷やまきうれ  
八九万空て面何やまぎうれ  
海へある肩へうて柳うれ

玄 砥  
小田原 芋魁  
孝徳 秋袋  
青 藍  
白 枝  
上毛 白枝  
由 戸  
武 府  
涼 傘  
全 傘  
芭 蕉  
女 星

古今集卷之一

喚起る うけ

うぐいさよあさきりしるおきん  
うぐいれや土のこぼるるなよ  
うぐいさや山低うして水細  
うぐいさの目よあてて居るおきん  
うぐいさや梅のしりしりおきん  
うぐいさやまの流しよとあは  
うぐいさや水の水をけけけ  
うぐいされ袖ひきくにおきん  
うぐいさの流して見ゆるおきん

八五  
吼  
涼  
令  
令  
素  
門  
笑  
牛  
城並には  
女  
に  
に

うぐいさやまのこどころえてあり  
うぐいさや鏡いしをつい云は  
うぐいさや香の想のきこえてよ  
うぐいさや痛む時ハ孫ておぼけ  
うぐいさのひしりくおおきん  
うぐいさの八日へ伸ておきん  
うぐいさや今までささるハ何  
うぐいさの寛望とゆるおきん  
うぐいさやささるおきん  
うぐいさや梅の匂さよぬえせ  
うぐいさの雲ありどのけておきん

秋午  
秋扇  
冬涉  
冬  
一  
双  
白  
李  
西  
深  
深  
日  
日  
日  
日

うぐいしむや ヤぐくまのしと腹みよる  
うぐいしむや 氷杓の尻のわいとき  
うぐいしむや さおし菜の下よけ  
うぐいしむや 竹よ小指とたのて居  
うぐいしむや けさハ隣へ代りて  
うぐいしむや 舟の拵をと踏み  
うぐいしむや 梅のうづまゝそよたう  
うぐいしむや 桃のそよいとつよ  
うぐいしむや 傍しうろのゆちよ  
うぐいしむや のせにやまのわて  
うぐいしむや 柿のうろのまの

百舟 春因 徐車 尾舟 荷 水 涼海 芭蕉 青 芭蕉

鮎み実

まゝまや けくくくくあ きて見る  
まゝまや 泡もさうけくくく  
まゝまや くくくくさのけくく  
まゝまや 水よまのきくく  
まゝまや 紙のまくれぬあよ  
まゝまや 鮎み実ハあまの顔でけ

去路 六月 一の 葉 涼

乾雪

乾くまゝまや 鮎のまゝまや

仙 東 程

古今和歌集卷之...

二月堂行 にふがつどう

あえま氷る傍れ 履のおと 芭蕉

釋奠 シヤクテン

けふ日ハモクれど 是いねは 破了  
祭のつる 門よし入て 柳の 五葉

荻能 たき

傍ハまぐ荻よき 水衣 凍雪  
舞出れふ女マモシの柳より 全

かゝりのはマけくき 徒然草此上 玄路

涅槃舎 ネハシヤ

洞でし元るたどし 涅槃像 鬼士  
多のそア 模し涅槃の枕とと 百川  
けぐものハ 死る 顔あり 涅槃像 季今  
何年の寛治 帝て涅槃 像 洞居  
涅槃舎や ぶまごで 志しぬもし 古山  
まあげる 町や 涅槃の 座が 大阜  
ねんま 下 男とちめても 鳥風 入楚  
涅槃ま 下 マ 香の 獅子ハ 山 44

古今和歌集卷之...

古今和歌集卷之六

いづりてし又記しるは涅槃の象  
涅槃の象 咬透くまは遊てり  
おりろい 差ある所は涅槃の象  
涅槃の象 告てふは某らうより  
いと孫の姿教てねんしる  
新はもくおこせどいねんしる

彼岸

梅さくいとくみ 水仙の彼岸の象  
蓮はまきく 浮世よまきくは彼岸の象  
新婦よあや 睡もいとくみ

之六  
紙旭  
多破  
止  
涼  
全

支考  
汶上  
文里

午時飯の隣ちり ねる彼岸の象

治世酒

治世酒は 耳に響く方へ月をいりき  
治世酒は 振るはくくしてのりき  
治世酒は ちめんとく物ごとく  
治世酒は 怖く下戸のがこまり  
治世酒は かわえてまきぬきむら  
治世酒は 秋のしんと悠らむら  
治世酒は 耳ちり山を笑ふき  
治世酒は 庭はさえて 露氷

燕石

涼字  
祇玉  
し路  
涼矣  
汶上  
東起  
白枝  
浮体

古今和歌集卷之六

古今片哥明題集卷之一

十七

水口いさくち

まさあはくほてあはくふくは

本巻南

初午うまつ

まつ午ア〜〜〜いさう〜〜泳のゆ  
おのや梅<sup>カキ</sup>論ハま〜〜を〜  
まつあア〜〜〜ま〜〜ハ〜  
おのや梅ハ〜〜を〜  
を〜  
おのや〜〜〜あちほま〜

江戶 超波  
祇徒 涼  
伊山 柳居  
百夫

勝夜おん

おあマ〜〜〜け〜  
おあマ〜  
おあマ〜  
おあマ〜

素園  
万里  
龜成  
玲嶋

勝月おん

う〜  
〜  
〜  
〜

羞水  
入楚  
梅吟

古今片哥明題集卷之一

十七

ぢちりり水とささくはらばら月 希因  
 清のありささくハ寺ささくはらばら月 六柿  
 柳もも居るものありおぼら月 一尾  
 志中のおーあま梅やおぼら月 李小  
 血場のおれてるありはらばら月 月梅  
 彷徨ハくさむくマおぼら月 白枝  
 思ふく下ハくさむくおぼら月 見凡  
 水よさき居もさむくおぼら月 十牛  
 一日の人よ泣てやおぼら月 伴山  
 おいばおくれぬ伴マはらばら月 雪郎  
 池水のおなく古ーはらばら月

箆<sup>ヒガ</sup>月ハ起つておぼら月 西羊  
 狗骨<sup>コウボネ</sup>の人よおぼら月 涼守  
 秋月<sup>アキツキ</sup>よたに思ふのさあはらばら月 全

焼野のマケ

挿<sup>カサ</sup>人の逐おされる 焼中<sup>ヤクナカ</sup>山  
 煙<sup>スモ</sup>灰<sup>カイ</sup>よ逃くけらる 焼中<sup>ヤクナカ</sup>山  
 欵<sup>ケン</sup>を<sup>キ</sup>お<sup>ウ</sup>一<sup>ト</sup>刻<sup>キ</sup>ええてマケやう乳  
 乳<sup>カ</sup>子の<sup>コ</sup>居<sup>イ</sup>ご<sup>ゴ</sup>ろ<sup>ロ</sup>知<sup>チ</sup>れ<sup>レ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>マケやう乳  
 石<sup>イシ</sup>刻<sup>キ</sup>え<sup>エ</sup>梅<sup>ウメ</sup>と<sup>ト</sup>お<sup>オ</sup>せ<sup>セ</sup>て<sup>テ</sup>焼<sup>ヤク</sup>中<sup>ナカ</sup>山  
 旅<sup>リョ</sup>の<sup>ノ</sup>尾<sup>ビ</sup>の<sup>ノ</sup>あり<sup>アリ</sup>け<sup>ケ</sup>て<sup>テ</sup>マケ<sup>マケ</sup>山  
 雙<sup>フタ</sup>飛<sup>トビ</sup> 大<sup>オホ</sup>和<sup>ワ</sup>林<sup>リン</sup>下<sup>ノ</sup> 琴<sup>コト</sup>路<sup>ロ</sup> 燕<sup>ツバメ</sup>山 吳<sup>ミ</sup>雪<sup>ユキ</sup>

古今集卷之...

陽炎

かけろよ鼻あそめるやるは  
陽炎ハ人教のやろ  
陽炎ハ地の道の付く  
かけろよハ掃て跡の残り

涼亭  
古由  
之六

紙の書

よき〜とよき〜とよき〜と  
ころんで〜と〜とにひ〜と紙の書  
大〜と〜と〜と〜と〜と〜と

乙路  
破了  
秋午

下りまといとハ慧の書ハいのののぼり  
乳〜と糸の出てありいのののぼり  
中天ハおぼ〜とあ〜といののぼり  
切て〜と陸橋とま〜と紙の書  
凡山ハののぼり日の影ハいのののぼり  
後ハより牛のあまハいのののぼり  
おろ〜とハのののぼり紙の書  
吹〜と花のとのののぼり

佳祐  
小足川  
素後  
加令侯  
香谷  
起鳳  
得牛  
徐来  
素園

變化為鳩 たくけりて  
たぐなる

古今集卷之二

古今和歌集卷之...

ね珠と乞<sup>こ</sup>く<sup>く</sup>け<sup>け</sup>て化<sup>け</sup>ー<sup>ー</sup>う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>  
大和 自天  
系 移竹  
系 笑林

春鷹 <sup>春鷹</sup> さるの  
系 珠李  
系 百尋

維<sup>き</sup> き  
旅人のま<sup>ま</sup>る<sup>る</sup>日<sup>日</sup>あ<sup>あ</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>紙<sup>紙</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>  
系 涼帝  
系 素園

す<sup>す</sup>ち<sup>ち</sup>の<sup>の</sup>痴<sup>痴</sup> キス <sup>痴</sup> キス <sup>痴</sup> キス  
系 九菊  
女 一紅  
大尾 道路  
系 為谷  
系 古由  
系 子風  
系 原城  
系 岸席  
系 太阜

告天子 ヒハ

古今和歌集卷之...

古今片歌明題集卷之二

り笠のそらうらうら 園まはらうら 涼  
 かつつまつあよ入きうらなひばり 涼  
 園い日の中よいくつもひばりうら 涼  
 抱くもてるるの定るひばりうら 涼  
 夕ひばりうらまようら出て 麦 圃  
 月又してこそよかきうらマ夕ひばりうら  
 うらうらものつきーのむむひばりうら 涼  
 うらうらうら路中の代流マ夕ひばりうら  
 うらうらうらまきうらうらひばりうら 涼  
 蓬乾が山の出てもうらひばりうら 涼  
 ちき日とこやへつめりひばりうら 涼

里遊 素園 涼亭 双飛 黄牛 双羽 司雅 吳江 祇登 凉城 西羊

下りてうらうらうら 人マ夕ひばりうら  
 簾巻て船のまうらマ夕ひばりうら  
 傘の背中てかくひばりうら 柳四  
 ぶ傘の巻をさるれてひばりうら 吟風  
 昇日よ後あうらめるひばりうら 秋午  
 日の暈の裏でさくもる 先子よら 一計  
 日の上よ巻てうらうらひばりうら 涼亭

知更雀

おまうらうら 旭とのせとて 走まらうら  
 こまうらうら 尻く鞠ると 告まらうら

凉城 眞竺

古今片歌明題集卷之二

ウツ<sup>ツ</sup>曾<sup>ソ</sup> 漢名 未詳  
うその終<sup>マ</sup>柳の糸の結<sup>ヒ</sup>マ<sup>キ</sup> 梅之

赤<sup>ニ</sup>都<sup>ノ</sup>牟<sup>ム</sup>之<sup>レ</sup>理<sup>リ</sup> 漢名 未詳  
笑<sup>ハ</sup>山の秘<sup>ヒ</sup>糸<sup>ヒ</sup>も<sup>も</sup> 維地

百<sup>モ</sup>千<sup>チ</sup>鳥<sup>トリ</sup>

ハツの耳<sup>ミミ</sup>け<sup>け</sup>時<sup>トキ</sup>ほ<sup>ほ</sup>ー<sup>ー</sup>ヤ<sup>ヤ</sup> 小会 呂く  
夜<sup>カ</sup>グ<sup>グ</sup>多<sup>タ</sup> 上毛 文睡  
大<sup>オ</sup>の<sup>ノ</sup>る<sup>ル</sup>う<sup>ウ</sup>加<sup>カ</sup>日<sup>ヒ</sup> 冠子

鳥尾 シウキ

妻<sup>メ</sup>志<sup>シ</sup>ヤ<sup>ヤ</sup>行<sup>コウ</sup>赤<sup>セキ</sup>吉<sup>キチ</sup>ハ<sup>ハ</sup> 断<sup>テ</sup>木<sup>キ</sup> 周防台 糸序  
翁<sup>ウ</sup>も<sup>モ</sup>梅<sup>ウメ</sup>ほ<sup>ほ</sup>け<sup>け</sup> 仙臺 杜夕  
志<sup>シ</sup>よ<sup>ヨ</sup>又<sup>マタ</sup>何<sup>ナニ</sup> 布川

鳥巢 シウカ

うらの糸<sup>イト</sup>ア<sup>ア</sup> 糸<sup>イト</sup>糸<sup>イト</sup>も<sup>モ</sup>く<sup>ク</sup>ハ<sup>ハ</sup> 左 枝  
何<sup>ナニ</sup>の<sup>ノ</sup>糸<sup>イト</sup>と<sup>ト</sup>氏<sup>ウヂ</sup>も<sup>モ</sup> 西 羊

黄<sup>ワウ</sup>雀<sup>セキ</sup> モウメ

子よせりのやうきいて 君ミラましめ 白ハク扇ウ

常トコ所トコロ

まぐひー所トコロとひめくまふりれ  
あまないあの冷ヒヤめてゆ 所トコロ  
屋ヤよついできりくまの所トコロ  
花ハナゆめさハ 経キー ゆりり  
少コ風のりるくとくしてかうのしき  
冠カ冠子コ

燕ツバメ つむぐ  
しきるヤ 夜ヨるよ 瞬ヒトキ きまてゆく  
尾ビ塚ツカ 記キ 候コウ

濡ヌながるる傘カサの下り燕ツバメのれ  
漕ソウうはり船フネもさるり燕ツバメのれ  
新ニ鳥トリ士の和ニふハちるぬしきりれ  
風フウ起キのあふくえかけて しきりる  
雪ユキあけて汀シタのはら 燕ツバメの那ナ  
白シロ壁カミと一ヒトまゝる 燕ツバメのれ  
隙ヒマ月ツキしつものかろさや群ムラつめ  
宿ヤド紳シンの地チと掘ウダてまゝつめぬれ  
燕ツバメアよて志シよへんてり  
托トク沛ペの先サキへとるやひつてしき  
撒マキちりてそめや里サトのぬらぐさ  
冠カ冠子コ 冠カ冠子コ 冠カ冠子コ  
羊ヒツ路ロ 巨キョウ井セイ 梅ウメ志シ 哥カ夕セキ 雄オウ飛トビ 祇キ棠ドウ 烏ウ林リン 入イ楚ソ 女メ松マツ 冠カ冠子コ 冠カ冠子コ

古今片歌明題集卷之二

古さへ土の化カアむつづを先  
皆まいのりて飛つてめり  
生卵をつまんで色る煮の卵  
ひき後ひいてハのく煮るれ  
煮マとあるをこれバそし煮ん  
川竹  
笑林  
吟詩  
祇愛  
涼雲

水鳥帰 いづつとる

萍ウキよ煮マよのいて 帰る 亀 カメ 大和村 呂

鹿解角 かづの

あてが女ごころマ くるのーり 兔 湖

ま花ハ今初顔マおと角 你 奥

猫草 ねこのこい

屋棟よ寐てるるしわうし猫の煮  
煮るよよて叶やねこのこい  
人と寐るれまねてや猫此こい  
唯ひくも煮るねマねよる 煮  
登るれりきぬくマ猫のこい  
拍榻と花田越ちるねこのこい  
照滴ゆきぬマ猫のこい  
雪舞てくれと忍ぶねこの煮  
七四日 猿史  
ト 雨笠  
サ 里史  
マ 里史  
然 吳雲  
然 猿四  
ト 洗雪  
ト 伴与

古今片歌明題集卷之二

啓執事ウツホギ

空の掬や こけぬちをまじく 蟻の習  
おのの穴今おぬ蟻と 泳動こし  
おびとよいふ 籠み人をとる

お持大位 麦 兔  
伏見 任 口  
大坂 山

蝴蝶コノテ

舞入てハ昔年のとてぬ 蝶は  
啼くア凡の次りしゆら ちん  
蝶くアあの云くよちうらうび  
蝶くアふの上下あはそんは

成業 去路 百卉 山  
足利 子

陸くアゆるものよふてり

上毛 素 論

蜂窠ハチノミ

蜂の窠アけり己が陸の聲  
蜂のまや一室くよ産て

上毛 羽 友  
お福 麦 行

亡蛭ウシムシ

亡蛭の目の何う悟りて 早合点  
かくルがアアガの紙格よ 産のま

山 仙 行  
お山

蛙カエル

かく田のこころしちうで蛙うぬ  
 杉まよ日ハたさまうしをかを川  
 公家尻ハものちづまうて蛙うぬ  
 龍スリホシのいよくスリホシ止る蛙うぬ  
 百姓のいかまへづ、このち川  
 涅槃う目を撮る蛙うぬ  
 飛ぶよつぬ田もあるか川  
 支チ道ダウ位イを四隅ヨウでちが蛙うぬ  
 身をさあうみして居るか川  
 乾物よ日ハうまされてか川  
 照る日よし池衣カハをさぬ蛙うぬ

一 卯  
 喜 辰  
 涼 巳  
 越 午  
 杜 未  
 固 申  
 祇 酉  
 立 戌  
 汶 亥  
 李 子  
 兔 丑

鳴くふのまこじかを川  
 費いよいをして奪る蛙うぬ  
 爬ヒ出デして突ツのあらく蛙うぬ  
 ぬりーし一字撒サせて蛙うぬ  
 空々クウクウルバそれ程ハ居ぬ蛙うぬ  
 水と出るもるハ一ヒてか川  
 有ア常ジョウググ女メの久ク出デて蛙うぬ  
 花ハつツつツ枝エも流ルる川  
 少シアアつツつツ吊ツル桶バケよさる蛙うぬ

柳 辰  
 左 巳  
 再 午  
 雨 未  
 律 申  
 素 酉  
 漢 戌  
 如 亥  
 采 子

田 標 大小

けやうよななほ結よ里の田りし  
 湖の敷とをなすてしり  
 霧の海高の海やふりし  
 づつれてまふふまふふ  
 木の節し吹こむじての田りし  
 こそはよふれと指やふりし  
 耕しとほまつまつく田りし  
 足あくと洞りて棲田りし  
 目よこめつびまうちり田り採  
 蕨のくまへてなまふりし  
 夜ふふいひやと見える田りし

涼子  
 素五  
 双飛  
 南蕙  
 三  
 素笈  
 雨笠  
 碓了  
 桐系  
 秋馬六

ありのまいたとさつりし  
 李北

現

水底一尺さ  
 堤と  
 堤採獲のりし  
 裏えてハハハハ地橋や  
 やまめとて湖の溢酒  
 桐原  
 五仙  
 上毛  
 涼楓

寄居虫

雙腕ハ悠し  
 冷えとて城と固める  
 其角  
 笑林

神楽一房くさむら ちか居きし  
栞ありは是はかくしそわうなるし  
涼字 汶上

今寄風のうせ

まよふもやほし物よおてまよふ  
今寄のや合せておてはたうこころ  
うしよややまをともてめはかこころ  
ついでよせや杜カキ怒カウをヤ株ハかまイさう  
うぐいものかもしよせう  
海ツキヒガヒ 凌  
玉イ桂ホ洲ホ  
負ウ 梶ウ 系ウ 月ウ

釋圃のう

圃うちのおんてむらタリク礼  
ちこうちやめぐうあつ耐る話  
はこうちマ隣カの傷ケ換カみカるカん  
圃カらのカはカ神カえカまカきカ天カうカ礼  
はこうちや挿カまカ女カうカうカらカ起カてカゐカる  
涼イ袋  
玄イ路  
全イ  
鬼イ掌  
猿イ四

秧田のう

ちかこころや泡ウしてあるも解ウぐウん  
ちかこころや芽とおんまてハ松ウのウ乳  
秧田ウやちかへりウてかウさウうウさウる  
涼ウ袋  
玄ウ路  
全ウ  
鬼ウ掌  
猿ウ四

麻蒔 あさ まき

麻ちまやあつて焼みてゆてやる 双飛  
あはまきやゆめあは呼る老深し出る 不跡

播種 たほお

あらしぬめのハきなるう程おろし 鬼塚

蒔 ひき

おもしろくやうとて 庵を蒔る 乙路  
鶴の尾と捕もつとも 浄形 王才  
糕 麦 千 苗 田 青 千  
あは招ハえとけぬ蒔る 千

ねん一伝ハのぼつて 百川  
中のよハ人よおとせる蒔る 笑女  
云あてくえとく 西洋  
一つうちさーあけて 吳蕙

筆頭菜 つくり

くじめく 斗光  
そるハゆぐ 秋午  
かげろよ 李趙  
降 鳥林  
少 安里

古今片歌明題集卷之一

歌 日の寺子よきしるつくーし  
深夕の路よお初てつくーし  
乳母の抱袴よちマつくーし  
足の泣えんハ蛙マつくーし

武戸△  
楚江

杉戸  
左珍

笑林

し路

蒲公英 たんがひ

しほりマ一あうくけてきのゆる  
たんりマ瓢ひょうの口一きいてゆる  
しりマ花はな一うくてのびあうり

本極  
箕山

双飛

雲郎

春菊 はるきく

ま葉はマ生な 菊きくの 笑わらハもる  
をうてこかつける道みちマあしまきく

和名  
李北

江戸  
竹支

菜花 なな

なのおマ紙かみの冠かぶものわゆるとき  
あれらの車くるまズーマ 牛うしのいち  
なのおれマゆりとりきさなるのら  
ちのおマいついつまの生なまのまをくけ  
たのおマ存ぞんく日ひとかきくてる  
ちのおマ花はなてハくよまきさのこ

柳車  
藤六

秋午

玄路

祇亞

雲和  
麦舟

珊瑚菜珊瑚菜 ばう  
胡コ菜サイ拔ヒキえけんのろろろ稼ツぢぢよよ水ミ 京 雙山

野蒜野蒜 のい  
釋圃釋圃まの味味のおるおるええあれあれハハおおののふふ 紀伊村 仙水

葛葛 莖莖 さち  
ののいいののももそそくく減減アアちちささ圃圃 無本 孤舟

藕藕 堀堀 ぬぼり  
蓮蓮根根アア先先ニニ三三本本 上ででほほろろ 京都 女女 亂

蓮蓮根根やや堀堀換換ちちよよてて 系系よよ糸糸るる 也 秋至

萍萍 始始 生生 うきくさ  
萍萍アアししよよしし遠遠よよ 波波 上毛 波

紫紫 籜籜 つのかむ  
水水多多ののもも花花おおどどろろややああーーののつつのの  
花花ををままけけててももろろややああーーののゆゆろろ  
行行ののいいしし茂茂へへささいいろろああーーののつつれれ  
甲甲塚塚ささくくいいちちいいアアああれれれれ  
浮浮石石のの押押へへいいろろややああーーののつつのの  
上毛 大田 水

水穴あけて流もやあいのつみ 小泉 謝舟  
鶺鴒の雛へ出づあーれはの 帯河  
東のありこふはよ山一あいのつ 城棠  
うらうらふるはれあいのつれ 全  
そとみうれは若葉をば葉折 山花  
水を出して急のまぐぐあはつる 漁を

菊秩

秩で先りいれめくう葉つくま 菊河

菊ト裁 まぐさの根

かのころし ツガ アし菊と 植るへる 女 地海  
色ふとんよ 葉のふ根 うれ 祇丞

胡顔子 ちかほ

ぐい一本 秩田 時の色てなり 去大葉 不崩

芥菜 しから

かゝちや 一口のむせてら も 一方

野蜀葵 びつ

お子板へ交れてくるいつをく乳 お山大玉 下固

辛夷シビ

幣ハテあし 枝エあし 花ハナしるきり  
草鞋コウジ大王オウの知チしるきり 元ハジメア幣ハテ辛夷シビ

小倉 文舟  
江戸 舟河

迎春花ウヰンチュウ

こころざいハ青いおマラ 枝エしるきり  
芙蓉フヨウマおし色のあふべきを

松前 白陀  
涼海

連翹レンギョウ

きんげいマ 枝エあし 交マらんし 下シりて 居ル

奈良 示行

山茶サンチャ

あつぎきあまきりさきに 枝エあし 接ツでえる  
おしるきり花ハナのあふむくつぎきり  
鶯ウの吸ス殻カラおしるきり 枝エあし 接ツでえる  
朝アサハハハ花ハナあふむくつぎきり  
晴ハレあし 枝エあし 接ツでえる  
いふつて日ヒあふむくつぎきり  
葉ハのしるきり 枝エあし 接ツでえる  
後ノチてしるきり 枝エあし 接ツでえる

所 坡  
江戸 欠  
名 江  
武 上  
武 羽  
一 尾

接枝つぎほ

樹の窠のそやちまてささる接枝つぎほ  
 木の路の老うなるら接枝つぎほ  
 つくさはんのささるつぎほつぎほ  
 日あつてまの服レゴトのちまてつきほつぎほ  
 花サガと露アラの禁呪レジナフつきほつぎほ  
 縁サガをえて拵ぬうちまてつきほつぎほ  
 紅ベニいものまてまむと接枝つぎほ  
 冠カバ又ワ優ウ等トシ毎ゲちまてつきほつぎほ

出代ハテ

むかひやかひけてまてまのめ  
 出ウ代トママ又ワ優ウ等トシ毎ゲちまてつきほつぎほ

百川上毛志

離像ひい

垣カキを極マてうのきひなは  
 一ヒトとせの藤フジ新カホ見えぬりれれ氣キ  
 吹フク降レのいちやる語コトのママれれら  
 樟シヤウ腦ノウのうはひはちやいなあまひ  
 折マ文マでツタ焼ヤクちまてつきほつぎほ  
 あんあんんよよああまま字ジハハ別ワいないな抱だひ  
 ほほいい月ツキええせるせる我われままととひひれれ小こ

希因正百正弁正中正郎正一正美正可正也正涼正帝正

新婦のあゝちりてあるりれは  
あひらや眼よ恋のなまけいら  
揺こよほと泣くしりなうれ  
柳つ片のなをさるゝ衣領ぞう  
あしりや又ころんとく懐も  
窓ハ一十 壇よりーいゝあそむ  
かくまうさやうよ小娘のしゝるは

涼字  
柳中  
李小  
六柿  
貫至  
妻房花母  
芳楚

園新

遊退よ人の志氣やうあそせ  
晴開の就よ矢腹マリのふ

去路  
上毛館林  
芳楚

氣のつよい人後りくうさあせ

長

潮盡

雲おのかくぐととて御そは  
中天へあそぶあけてあひは  
勢鈴の礎着とくくぬい柳  
床こころの形よままてまほひは  
拾よ麦葦のまがるまほひ柳  
巨航一擲の念ぬーほうい柳  
んくそよまきのくまほひうれ  
後倉よもあのみさうよまほひうれ

兔士  
凍雪  
洗香  
百卉  
巴山  
一氣  
ふ東  
破了



力の酔い方々 姫日之壬士の担

上モツラガシ 半水

市身拭 ちしめ

団ぐるのるんちやあきほまぬぐい

おのチ戸 鳥道

順筆入 まじりの

ま入ヤまじるも山のこらよ

ほみの本 涼翁

大よのヤら入平しよるハまじる

花雷

ま入ヤおし路あまきまつー

七郎

法花糸 たままづめ

半水

おありくふや陸めてるの糸

涼翁

煙塞 ろよ

煙あきぎや此芝蔭ハおち

涼翁

煙あきぎやきいおさく清るころ

片 漁光

あきぎに梅の出てゆくころ

上まが糸 映 棠

長日 なが

あきぎ日ヤ暮るよハあたる 飛る川

涼翁

あきぎ日ヤ暮るよのあたるよ照とま

一 魚

あきぎ日ヤ暮るよの梅 カキ 画 は けく

母及三三 白道

細きい日しき... 不破のせき  
もき日マカ... のむ...  
もき日マ桃の... 老とせん

孫... 西... 原... 城...

田代化為...  
てんそけい

白う化を... 変て...  
紫<sup>ムラサキ</sup>よま... 毛の...  
き... 氣し... へらぬう...

改上  
入... 涼... 常...

麦麴 むぎこう

居所の踏れ... 麦うば...

本... 仙... 忍...

鳥冲雲 とりうき

き... 乳も... 沖... あり... の...

一...

琴路 かみ

え... 口... にぬ... ころ... ぐ...  
居... 始末の... かい... くれ

足利... 南... 斗... 玉... 負...

梅介 うめがけ

汲汲の... ち... や... がい...  
拾... 指... さ... くれ

杉... 仲... 連... 花... 石...

蛤ハ蝶々ともちりて 出くうし

双飛

櫻棘鬘矣 さくら

あけく 海村のちりやさくく みる矣  
はるまゝ人の せきや さくく ぬし  
落のまふぐくれとあせさくくし  
おれは桜棘が似たりさくくぬし  
泊竿てめぐるやうしの橋 ぐき

其 府 さくら  
通 さくら

可由 たぬ

旭 溪

梅 奥 はな

流はくくあかやとくや 出くく 矣

東 起

個の目と 浅るハ 答れ さくく 矣

然 出くく

少 溪 韞 あや

逆さまよ底の ぬく 小あゆ 之 耶  
むくむくの 流くく 小あゆ 出  
篝燈と 就て くれハ 小あゆ ぬ  
くくあゆマ花の 枝に 昇る ます  
日あくくハ 水も 芽と 出くく 小あゆ 出  
烟の 月の 照く せき 小あゆ 之 耶  
くくあゆや 氷の ころく ぬし 之 耶  
水の 痕 跡 みてハ ぬし 小あゆ ぬ

玉 負

深 宿

西 羊

阿 坡

葱 帆

し 踏

其 梅

宇 光

上 染のぼり

何れとともひつめやのぼるやれ  
一寸の萌きざしハたや一のりやな  
深布タキとらて子ふらるのぼり染

樟カ春帆  
子葉  
深布タキ子

紫花地丁むすね

火ヒのゝのころしにちかき葉ハ茶山  
たるの空スミ者シもやきしれくは  
深フのるにちやりきしれ  
氣あけぬヒス女の縁ヰやきしれ

双ヒ双ヒ羽  
園ヒ女  
深フ女

よのいらとくわめておやきしれ  
葉ハのいとしあまるきしれ  
地チ柄カとつみねるきしれ  
凌ミ日ヒの入イるきしれ

叶ハ石  
舎ヤ舟  
希キ園  
涼ス葉

荷花葉ハ草クサ

被シ常トとくくつて居イるや葉ハ草クサ  
根ネとりれレがさるルいいゆゆやきしれ

信シ仲チ根ネ葉ハ  
其コノ青アヲ  
鶴ツル子コ

茅チ鉞ツ

ゆゑのチ葉ハも物モノよチあつたツちチ

越チ波ハ



いき海に空の字一解くわらめ山

伊豆御点  
松山 倭

芋種いも

根芋ア化さぬ 蕨ク 行く居る

汎 旭

桃もも

秋あきさげて呵あにあらやりのふ  
何なになるをしれくゆくし桃もものふ  
手て子こ似にるふみもたりしりのふ  
おほしとるれハ風ありやりの花  
かきとせて白しろと体ていむアもとのたま

涼いせ兔  
涼りやう傭  
希き因  
一いっ氣  
素す茂

桃ももさくや園えんの膚はだかの枝えだをうら  
誰たれのいまき海うみ一いっ ちのたまれ  
残のこれのまき城しろらのまき桃もものふ  
床とこてのれ牛うしの池いけやりのたまれ  
葉はまむけハ月つきもまきやけ桃もものふ  
行ゆ徑みちハ張はのあし ちのたまれ  
捷はや徑みちと乳ちち母ははをけやりのふ  
一いっ里り出ておちかやりのたまれ  
あましくハ流ながれえつやけりたふ  
おくまきくハ睡ねのまき桃もものふ  
麦むぎ圃ぼよちの氣きありまきのたま

麦むぎ林  
珠たま李り  
其その葉は  
涼りやう傭  
雪ゆき叩たた  
文ぶん符ぷ  
双ふた飛と  
李り小  
雪ゆき郎らう  
成なり石  
回まわ山やま



まぐさきき侍のまぐさやゆき  
眼のまぐさきき侍のまぐさ  
折らぬまぐさのまぐさきき侍  
蒼天のまぐさきき侍のまぐさ  
閑坐のまぐさきき侍のまぐさ  
湯のまぐさきき侍のまぐさ  
水の出るまぐさきき侍のまぐさ  
とどろきのまぐさきき侍のまぐさ  
怖るまぐさきき侍のまぐさ  
龍達とまぐさきき侍のまぐさ  
面々う位持とまぐさきき侍

見風  
葉子  
琴相  
涼亭  
温故  
芳坡  
映棠  
桐井  
玉斧  
子承  
野草

形々のまぐさきき侍のまぐさ  
風ハまぐさきき侍のまぐさ  
まぐさきき侍のまぐさ  
徳のまぐさきき侍のまぐさ  
洗室のまぐさきき侍のまぐさ  
糸のまぐさきき侍のまぐさ  
人のまぐさきき侍のまぐさ  
又山まぐさきき侍のまぐさ  
吾川へまぐさきき侍のまぐさ  
山嶽ちまぐさきき侍のまぐさ

可也  
第牛  
梅瓜  
百奇  
素園  
洗音  
麦舟  
文曉  
厚味  
胆素  
智月

古今和歌集卷之十一

古今和歌集



法標ハトゆく風や山さく  
そまうとく<sup>阿</sup>ころえせて山様  
我らもこのころもや山さく  
瘧<sup>クダビシ</sup>きてさくくもや山さく  
知更<sup>コト</sup>花のちらしておる様  
あまよハ向らぬとゆもせ神さく  
そゆとく<sup>不</sup>のさあり神さく  
神さく<sup>と</sup>もさく<sup>と</sup>知て<sup>と</sup>か<sup>と</sup>く<sup>と</sup>  
老<sup>トシ</sup>大<sup>トシ</sup>のまぬま<sup>と</sup>く<sup>と</sup>  
別<sup>トシ</sup>法<sup>トシ</sup>のま<sup>と</sup>ち<sup>と</sup>あ<sup>と</sup>て<sup>と</sup>く<sup>と</sup>  
後<sup>トシ</sup>先<sup>トシ</sup>のま<sup>と</sup>ま<sup>と</sup>く<sup>と</sup>は<sup>と</sup>く<sup>と</sup>

門窓 一言 色甲 双飛 柳之 兔士 其挑 凉穿 全 全 吟兔

あまよきこ晴のやうなるさくく  
面白く<sup>不</sup>なる<sup>と</sup>様<sup>と</sup>じて<sup>と</sup>も<sup>と</sup>く<sup>と</sup>  
消<sup>トシ</sup>く<sup>と</sup>せ<sup>と</sup>ぬ<sup>と</sup>あ<sup>と</sup>よ<sup>と</sup>急<sup>と</sup>ぐ<sup>と</sup>山<sup>と</sup>さ<sup>と</sup>く<sup>と</sup>  
け<sup>トシ</sup>里<sup>トシ</sup>の<sup>と</sup>ま<sup>と</sup>く<sup>と</sup>や<sup>と</sup>ま<sup>と</sup>く<sup>と</sup>さ<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>那<sup>と</sup>  
あ<sup>と</sup>く<sup>と</sup>と<sup>と</sup>ハ<sup>と</sup>形<sup>と</sup>は<sup>と</sup>ぬ<sup>と</sup>ま<sup>と</sup>ぬ<sup>と</sup>さ<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>乳<sup>と</sup>  
山<sup>と</sup>さ<sup>と</sup>く<sup>と</sup>ハ<sup>と</sup>梅<sup>と</sup>さ<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>山<sup>と</sup>  
一日のそ<sup>と</sup>ハ<sup>と</sup>梅<sup>と</sup>さ<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>山<sup>と</sup>さ<sup>と</sup>く<sup>と</sup>  
元<sup>と</sup>山<sup>と</sup>の<sup>と</sup>し<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>  
そ<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>  
杉<sup>と</sup>糸<sup>と</sup>ハ<sup>と</sup>独<sup>と</sup>る<sup>と</sup>客<sup>と</sup>さ<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>  
お<sup>と</sup>ち<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>く<sup>と</sup>

吟石 李小 全 白枝 一嵐 全 兔士 松段 双飛 漁走

あらしうとあそハ笑ツ山嶺  
谷へおしきのまつれやもけり  
神根あし進くよはけをこ  
鶴と見てく道下アツけろ  
毛モウ鹽センよかきあて居るさくく乳  
山さくく二人さくくハさくく  
女と推てのぼるやさくく  
暮かきのハきよまの目ヤ山さくく  
け厨よ一なるうよくさくく  
くあすのちると何出たさくく乳

素花  
子竹  
利害  
菓子  
桂露  
一嵐  
素園  
乙路  
玄芝

もろとやあさきよ早るさくく乳

素花

海棠

海棠尸天志新の子の顔のいろ  
海棠ヤ際ハ歩度と眼とさくく

希周  
一子

梨花

啼くと混てしきー梨のまれ  
路へおつれ降らめてちーのま  
日あさりとほれて白ー梨のま  
袋ニユスミのぬよ元ダてやたー乃をれ

古  
木  
石  
雨  
雷

羊躑躅に

狭<sup>カスガ</sup>扭<sup>イ</sup>の空<sup>ソラ</sup>よし秋<sup>アキ</sup>てマドク<sup>ク</sup>れ  
枝<sup>エ</sup>おれハ<sup>ハ</sup>即<sup>ツキ</sup>くあ<sup>あ</sup>りい<sup>い</sup>ハ<sup>ハ</sup>マ<sup>マ</sup>ー  
並<sup>ナ</sup>てお<sup>お</sup>りあ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>のあ<sup>あ</sup>マ<sup>マ</sup>あ<sup>あ</sup>マ<sup>マ</sup>ー

古路  
双飛  
李心

金棣棠<sup>ヤマ</sup>

や<sup>や</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>偏<sup>ヒラ</sup>マ<sup>マ</sup>あ<sup>あ</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>も<sup>も</sup>め<sup>め</sup>ん  
や<sup>や</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>鱗<sup>ハ</sup>よ<sup>よ</sup>た<sup>た</sup>ー<sup>ー</sup>て<sup>て</sup>き<sup>き</sup>ん  
や<sup>や</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>杓<sup>シ</sup>よ<sup>よ</sup>つ<sup>つ</sup>い<sup>い</sup>て<sup>て</sup>ま<sup>ま</sup>る  
や<sup>や</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>園<sup>ヰ</sup>ち<sup>ち</sup>よ<sup>よ</sup>井<sup>イ</sup>戸<sup>ド</sup>も<sup>も</sup>ち<sup>ち</sup>り

号江  
破了  
凉代  
希周

や<sup>や</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>海<sup>ウミ</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>ひ<sup>ひ</sup>し  
棣<sup>ヒ</sup>棠<sup>トウ</sup>マ<sup>マ</sup>贈<sup>オク</sup>ま<sup>ま</sup>は<sup>は</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>金<sup>カネ</sup>雀<sup>セキ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り

胡秋  
許六

瑞香花<sup>シズク</sup>

あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>の<sup>の</sup>梅<sup>ウメ</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>け<sup>け</sup>け  
紫<sup>ムラサキ</sup>の<sup>の</sup>戸<sup>ド</sup>も<sup>も</sup>沛<sup>ヘ</sup>石<sup>イシ</sup>の<sup>の</sup>香<sup>カ</sup>の<sup>の</sup>や<sup>や</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>ん<sup>ん</sup>て<sup>て</sup>花<sup>ハ</sup>

に内宿林  
士林  
甲霸

本蓮花<sup>ホレン</sup>

あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ち<sup>ち</sup>ー<sup>ー</sup>本<sup>ホ</sup>蓮<sup>レン</sup>花<sup>ハ</sup>  
け<sup>け</sup>いろ<sup>いろ</sup>と<sup>と</sup>尾<sup>ビ</sup>の<sup>の</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>ら<sup>ら</sup>マ<sup>マ</sup>本<sup>ホ</sup>蓮<sup>レン</sup>花<sup>ハ</sup>

伊也  
秋午  
梧井

石菖蒲花

水向の山居よまじり 石菖蒲花  
やまぐりの心志よ茶やるも申ふ

武小麻中  
桃  
東

紫荊花

一研のちしや紫荊の山居よまじり 天

陸形  
里杏

笑靨花

蓋減とくれは 折られてこめを  
も風のすしおろろやこめくれ

武金坊  
芳竹  
芳梅

郁李

飛ちがく池さく脚えぬこころめ  
沖木の末社もありてこころめ

は  
利  
梅  
里

玉簪

花まて 早もる 住居やにほふ

武本房  
車

五加皮

垣越しよ 汗の 乾るうこぎくれ  
老僧の腰の して居るうこぎくれ  
下まをを や 撒げさるうこぎくれ

涼字  
全  
阿岐

採茶つち

ちつき日のけきをむじうよ茶つてい  
まのこのうはへよせしる茶つてい  
枝こーは祥タスキのらある茶つてい

柳居  
双飛  
西洋

梅新生茶うめの

う梅の又けくめてころ茶つてい

映石

紫藤ムラサキの

り花のほうらひあやうぢのそれ

吾仲

小ぼりまにまをてりるやあちのふ  
横あゆまよめれてはあまのふ  
ほハ茶茶てあるやあちのそれ  
栗クリのまて遠くか茶やあちの花  
枝えだのいんの歌やあちのそれ  
杉スギのわあまの茶やあちのふ  
うりれて目ハくまうりあちの花  
此茶のふくらむていもあちの  
脱はずてりまよハコ茶ハコやあちのふ  
下したのそりり口あうあちのそ  
午ひるのそりり又一日うあちのそれ

祇丞  
独ひとり文  
一ひと氣  
涼すず茶  
茶園  
全  
竹たけ活  
柳やなぎ枝  
百川  
百ひゃく川  
風かぜ奇  
楓かへ里

古今戸歌明集卷之一

六十一

あちのふもろて健ふ後れり  
あまをのかうりちうちのふ  
手抱へ編を伸うちのふ  
洞伽架のよハふであちのふ  
山寺の塔へけりあちれ花

素園  
其  
一

成棠  
湖

春夕

さへろふ山ふあれども  
さへろふ山ふあれども  
さへろふ山ふあれども  
さへろふ山ふあれども

五  
綾

暮春

風もや入るれり  
あまよ凄きより  
りもや一枝麻の  
三井さへ陸  
ゆもや下移  
まのふれ  
目の早  
塔ののさ  
末て  
我あ

斗  
東  
兄  
希

全  
桃  
世  
甚

風  
有  
七

涼  
七  
郎

古今圖書集成

吸露菴藏板

